鳥取県の推計人口（年報）

【令和4年10月～令和5年9月】

令和５年１２月４日公表

鳥取県総務部統計課

目　　次

用語の説明 …… 1

利用上の注意 …… 2

調査結果の概要
Ⅰ　鳥取県の推計人口
1　推計人口と世帯数 …… 3

2　年齢３区分別人口 …… 4

Ⅱ　人口動態
1　概況 …… 7

2　自然動態
（1）自然動態の推移 …… 7
（2）月別自然動態 …… 8

3　社会動態
（1）社会動態の推移 …… 8
（2）月別社会動態 …… 9
（3）都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態 …… 9
（4）ブロック別の県外転入・転出 …… １１
（5）都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数 …… １１
（6）年齢５歳階級別、男女別社会動態 …… １２

Ⅲ　市町村別推計人口
1　市町村別の推計人口 …… １３

2　年齢３区分別人口
（1）年少人口 …… １４
（2）生産年齢人口 …… １４
（3）老年人口 …… １４

Ⅳ　市町村人口動態
1　人口増減 …… １５

2　自然動態
（1）市町村別自然動態 …… １６
（2）月別自然動態 …… １７
（3）男女別自然動態 …… １７

3　社会動態
（1）市町村別社会動態 …… １８
（2）県内移動 …… １９
（3）県外転入・県外転出 …… ２０
（4）４市における年齢５歳階級別、男女別県外転入転出 …… ２１

＜参考＞外国人（国籍不詳を含む）の推計人口 …… ２５

用　語　の　説　明

１　人　口　性　比

女性を100としたときの男性の割合

２　年　少　人　口

0歳～14歳の人口をいう。

３　生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

４　老　年　人　口

65歳以上の人口をいう。

５　年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

６　老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

７　従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口}+\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

８　老 年 化 指 数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

９　動態

(1)人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
(2)自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
(3)社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

１０　移動

(1)移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
(2)実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
(3)県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
(4)県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
(5)県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
(6)県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
(7)転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

１１　出生率及び死亡率

(1)出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
(2)死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

１２　移動者の年齢

令和5年10月1日現在の満年齢による。

１３　自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

１４　自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率（パーミル【‰】）をいう。

１５　社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

１６　社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率（パーミル【‰】）をいう。

１７　ブロック別区分

北海道…北海道
東　北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関　東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中　部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近　畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中　国…島根県、岡山県、広島県、山口県
四　国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九　州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

１８　地域別区分

東　部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町
中　部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町
西　部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

１９　市郡別

市　部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市
郡　部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利　用　上　の　注　意

1　鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。

2　推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。

3　平成27年国勢調査国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。

4　人口及び世帯の移動数は、令和4年10月から令和5年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和5年9月末現在のもので記載している。

調　査　結　果　の　概　要

Ⅰ　鳥取県の推計人口

１　推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は５３７，３１８人で、前年に比べ６，２９７人減少し、平成８年以降２８年連続の減少となった。

令和５年 10 月１日現在の鳥取県の推計人口は 537,318 人で、前年に比べ 6,297 人減少した。

昭和 50 年（581,311 人）以降の推移をみると、昭和 63 年の 616,371 人をピークに減少傾向となり、平成６年及び７年は増加したものの、平成８年以降は 28 年連続の減少となった。この間、平成 20 年に 60 万人台、平成 22 年に 59 万人台、平成 25 年に 58 万人台、平成 28 年に 57 万人台を割り、平成 29 年から平成 30 年は 56 人台で推移し、令和元年では 56 万人台、令和３年では 55 万人台、令和５年では 54 万人台を割った。

男女別人口をみると、男性 257,165 人、女性 280,153 人で、人口性比は 91.8 であった。

外国人の推計人口（国籍不詳を含む。以下同じ。）は 10,217 人（県の推計人口に占める割合は 1.9%）で前年に比べ 501 人増加し、２年連続の増加となった。男女別にみると、男性 4,465 人、女性 5,752 人で、人口性比は 77.6 であった。

世帯数は、221,780 世帯で、この１年間で 132 世帯増加した。

昭和 50 年（156,826 世帯）以降増加が続き、平成 12 年では 20 万世帯を超え、令和５年では過去最大となった。１世帯当たりの人員は 2.42 で減少が続いている。

（図１、表１、表２、統計表第１表）

図１　人口と世帯数の推移

注 1）各年の人口は 10 月１日現在の人口による。

注 2）表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表１　推計人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、%、世帯）

年	人口			対前年				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人
	総数	男	女	総数	男	女	率			
R元年	**557,343**	**266,334**	**291,009**	**−4434**	**−2019**	**−2415**	**−0.79**	**91.5**	**218,841**	**2.55**
	8,864	3,757	5,107	1,006	449	557	12.80	73.6		
R2年	**553,407**	**264,432**	**288,975**	**−3,936**	**−1,902**	**−2,034**	**−0.71**	**91.5**	**219,742**	**2.52**
	9,428	4,045	5,383	564	288	276	6.36	75.1		
R3年	**548,562**	**262,227**	**286,335**	**−4,845**	**−2,205**	**−2,640**	**−0.88**	**91.6**	**220,693**	**2.49**
	9,230	3,973	5,257	−198	−72	−126	−2.10	75.6		
R4年	**543,615**	**260,026**	**283,589**	**−4,947**	**−2,201**	**−2,746**	**−0.90**	**91.7**	**221,648**	**2.45**
	9,716	4,255	5,461	486	282	204	5.27	77.9		
R5年	**537,318**	**257,165**	**280,153**	**−6,297**	**−2,861**	**−3,436**	**−1.16**	**91.8**	**221,780**	**2.42**
	10,217	4,465	5,752	501	210	291	5.16	77.6		

注1）下段は外国人で内数

注2）外国人は国籍不詳を含む。

２　年齢３区分別人口

老年人口は、７４１人減少し、平成２３年以来１２年ぶりの減少となった。
年齢３区分別の構成割合は、年少人口は１２．２％、生産年齢人口は５４．３％で、ともに過去最低、老年人口は３３．５％で過去最高となった。

年齢３区分別にみると、年少人口は 64,380 人で前年（令和４年 10 月１日現在）に比べ 1,543 人減少、生産年齢人口は 287,495 人で 4,013 人減少、老年人口は 177,414 人で 741 人減少した。（年齢３区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和 50 年以降の推移をみると、年少人口は昭和 60 年の 130,668 人をピークに減少に転じ、平成 12 年に 10 万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は同じく昭和 60 年の 400,717 人をピークに、以降減少が続いている。老年人口は平成７年に 11 万人台、平成 28 年からは 17 万人台となり増加傾向であるが、令和５年は平成 23 年以来 12 年ぶりの減少となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は 12.2%で 0.1 ポイント低下し、生産年齢人口は 54.3%で 0.1 ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は 33.5%で 0.2 ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は 84.1 で 0.4 ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は 22.4 で 0.2 ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は 61.7 で 0.6 ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は 275.6 で 5.4 ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図２、図３、図４－１、図４－２、表２、表３、統計表第１表）

図２　年齢3区分別人口の推移―S50年～R5年―

注）表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図３　年齢構成指数の推移―Ｓ50年～Ｒ５年

注）表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図4－1 人口ピラミッド

県全体 537，318人

図4－2 人口ピラミッド（外国人）

県全体 10，217人

注）外国人は国籍不詳を含む

表2　年齢5歳階級別人口

（単位：人）

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	537,318	257,165	280,153	91.8	10,217	4,465	5,752	77.6
0～4歳	18,711	9,645	9,066	106.4	66	37	29	127.6
5～9	22,004	11,332	10,672	106.2	86	34	52	65.4
10～14	23,665	12,026	11,639	103.3	68	43	25	172.0
15～19	24,629	12,696	11,933	106.4	268	107	161	66.5
20～24	20,892	10,985	9,907	110.9	981	448	533	84.1
25～29	20,436	10,343	10,093	102.5	911	408	503	81.1
30～34	23,021	11,607	11,414	101.7	672	257	415	61.9
35～39	28,086	14,098	13,988	100.8	427	135	292	46.2
40～44	32,162	16,350	15,812	103.4	415	131	284	46.1
45～49	36,491	18,483	18,008	102.6	308	100	208	48.1
50～54	35,756	17,915	17,841	100.4	296	70	226	31.0
55～59	31,841	15,527	16,314	95.2	187	45	142	31.7
60～64	34,181	16,453	17,728	92.8	139	41	98	41.8
65～69	37,607	18,176	19,431	93.5	108	36	72	50.0
70～74	43,098	20,432	22,666	90.1	115	50	65	76.9
75～79	33,837	15,340	18,497	82.9	97	41	56	73.2
80～84	25,488	10,250	15,238	67.3	67	24	43	55.8
85～89	20,134	6,849	13,285	51.6	22	9	13	69.2
90～94	12,120	3,255	8,865	36.7	17	1	16	6.3
95歳以上	5,130	930	4,200	22.1	8	2	6	33.3
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注 1）外国人は国籍不詳を含む。

注 2）各歳別に年齢不詳は含まない。

表3　年齢3区分別人口

（単位：人、%）

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口（0～14歳）	64,380	12.2	220	4.2
生産年齢人口（15～64歳）	287,495	54.3	4,604	87.6
老年人口（65歳以上）	177,414	33.5	434	8.3
うち75歳以上	96,709	18.3	211	4.0

Ⅱ　人口動態

１　概況

１年間の人口動態は、自然増減は４，９１９人減少、社会増減は１，３７８人減少し、人口増減の減少幅は前年に比べ１，３５０人拡大した。

令和５年（令和４年 10 月～令和５年９月）の１年間の人口動態をみると、自然増減は 4,919 人の減少、社会増減は 1,378 人の減少、合計 6,297 人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ 1,350 人拡大した。**（図5、統計表第3表）**

図５　人口増減の推移　　－Ｓ５０年～Ｒ５年

注）各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

２　自然動態

（１）自然動態の推移

自然増減は、４，９１９人減少し、平成１０年以降２６年連続の減少となった。

出生数は昭和 50 年（8,735 人）以降減少傾向となり、昭和 63 年からは 6,000 人台、平成５年からは 5,000 人台、平成 21 年からは 4,000 人台、令和２年からは 3,000 人台となり、令和５年は 3,462 人で前年に比べ 274 人減少した。

死亡数は、平成２年ごろまでは 5,000 人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成 15 年からは 6,000 人台、平成 25 年からは 7,000 人台、令和５年は 8,381 人で 8,000 人台となり、前年に比べ 490 人増加した。

自然増減は 4,919 人の減少となり、減少幅は前年に比べ 764 人拡大し、平成 10 年以降 26 年連続の減少となった。**（図6、統計表第3表）**

図6　出生数、死亡数の推移　－S50年～R5年

注）各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

（２）月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、１月の減少数が最も多い。

月別にみると、出生数は令和４年 10 月の 339 人（出生総数に占める割合 9.8%）が最も多く、次いで令和４年 11 月の 313 人（同 9.0%）、令和５年８月の 310 人（同 9.0%）であった。

死亡数は令和５年１月の 912 人（死亡総数に占める割合 10.9%）が最も多く、次いで令和４年 12 月の 787 人（同 9.4%）、令和５年２月の 768 人（同 9.2%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和５年１月の 603 人が最も多かった。（図7、統計表第4表）

図7　月別自然動態 ― R4年10月～R5年9月

	R4年 10月	11月	12月	R5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
出生数	339	313	284	309	256	288	244	280	297	285	310	257
死亡数	−699	−688	−787	−912	−768	−697	−630	−671	−602	−614	−657	−656
自然増減数	−360	−375	−503	−603	−512	−409	−386	−391	−305	−329	−347	−399

３　社会動態

（１）社会動態の推移

社会増減は、１，３７８人減少し、平成１３年以降２３年連続の減少となった。

令和５年（令和４年 10 月～令和５年９月）の県外転入者は 9,612 人、県外転出者は 10,990 人で社会増減は 1,378 人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は 5,542 人で実移動者総数は 26,144 人であった。

前年と比べると、県外転入者が 448 人減少、県外転出者が 138 人増加し、社会増減の減少数が 586 人拡大した。また、県内移動者が 41 人減少し、実移動者総数が 351 人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和 50 年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成 13 年以降 23 年連続の減少となった。（図8、統計表第3表、統計表第7表）

図8　県外転出入者数の推移 ―S50年～R5年

注）各年の数値は前年 10 月～当年９月の集計による。

（２）月別社会動態

３月及び４月の２か月間で、年間県外移動者総数の４０．１％を占める。

月別にみると、県外転入者は令和５年３月の 1,904 人（県外転入者総数に占める割合 19.8%）が最も多く、次いで令和５年４月の 1,684 人（同 17.5%）、令和５年７月の 715 人（同 7.4%）であった。

県外転出者は令和５年３月の 3,415 人（県外転出者総数に占める割合 31.1%）が最も多く、次いで令和５年４月の 1,261 人（同 11.5%）、令和５年２月の 745 人（同 6.8%）であった。

この結果、令和５年４月が 423 人増加し、令和５年３月が 1,511 人減少し、この２か月間で年間県外移動者総数の 40.1%を占めている。**（図９、統計表第６表）**

図９ 月別県外転出入者数 ― R4年10月～R5年9月

	R4年10月	11月	12月	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県外転入	595	526	533	557	592	1,904	1,684	675	597	715	627	607
県外転出	−588	−561	−523	−538	−745	−3,415	−1,261	−661	−617	−722	−701	−658
社会増減数	7	−35	10	19	−153	−1,511	423	14	−20	−7	−74	−51

（３）都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は外国の１，２４３人、県外転出者数は大阪府の１，２５７人が最も多い。

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の 1,243 人（男性 537 人、女性 706 人）が最も多く、次いで島根県の 1,211 人（男性 643 人、女性 568 人）、大阪府の 869 人（男性 450 人、女性 419 人）であった。

県外転出者は大阪府の 1,257 人（男性 605 人、女性 652 人）が最も多く、次いで島根県の 1,233 人（男性 662 人、女性 571 人）、東京都の 1,053 人（男性 539 人、女性 514 人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の 643 人が最も多く、次いで外国の 537 人、岡山県の 466 人であり、県外転出者は島根県の 662 人が最も多く、次いで大阪府の 605 人、東京都の 539 人であった。

女性の県外転入者は外国の 706 人が最も多く、次いで島根県の 568 人、大阪府の 419 人であり、県外転出者は大阪府の 652 人が最も多く、次いで島根県の 571 人、東京都及び兵庫県の 514 人であった。

（図１０－１、図１０－２、図１０－３、統計表第１４表）

図10－1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県（総数）

図10－2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県（男）

図10－3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県（女）

（４）ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの 2,972 人（男性 1,701 人、女性 1,271 人）が最も多く、次いで近畿ブロックの 2,162 人（男性 1,146 人、女性 1,016 人）、関東の 1,357 人（男性 788 人、女性 569 人）であった。

県外転出者は中国ブロックの 3,091 人（男性 1,763 人、女性 1,328 人）が最も多く、次いで近畿ブロックの 2,936 人（男性 1,441 人、女性 1,495 人）、関東ブロックの 2,159 人（男性 1,163 人、女性 996 人）であった。

（図11－1、図11－2、統計表第14表）

図１１－１　地域別県外転入者数

図１１－２　地域別県外転出者数

注）全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

北　海　道	北海道
東　　北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関　　東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中　　部	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野 岐阜、静岡、愛知、三重
近　　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中　　国	島根、岡山、広島、山口
四　　国	徳島、香川、愛媛、高知
九　　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

（５）都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

転入超過数は外国の４５８人、転出超過数は東京都の４９８人が最も多い。

転入超過数は、外国の 458 人（男性 198 人、女性 260 人）が最も多く、次いで香川県の 35 人（男性 16 人、女性 19 人）、和歌山県の 26 人（男性 16 人、女性 10 人）であった。

転出超過数は、東京都の 498 人（男性 210 人、女性 288 人）が最も多く、次いで大阪府の 388 人（男性 155 人、女性 233 人）、兵庫県の 217 人（男性 103 人、女性 114 人）であった。

（図12、統計表第14表）

図12　都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数（男女別）

（６）年齢５歳階級別、男女別社会動態

６０～６４歳が最も増加し、２０～２４歳が最も減少

年齢５歳階級別にみると、県外転入者は男女とも 20～24 歳が最も多く（男性 1,143 人：男性の県外転入者総数に占める割合が 21.5%、女性 973 人：女性の県外転入者総数に占める割合が 22.6%）、次いで男女とも 25～29 歳（男性 863 人：同 16.2%、女性 744 人：同 17.3%）であった。

県外転出者は男女とも 20～24 歳が最も多く（男性 1,540 人：同 26.2%、女性 1,342 人：同 26.2%）、次いで男女とも 25～29 歳（男性 949 人：同 16.2%、女性 894 人：同 17.5%）であった。

県外転入転出により、60～64 歳が最も増加（65 人：男性 56 人、女性 9 人）、20～24 歳が最も減少（766 人：男性 397 人、女性 369 人）し、年間県外移動者総数をみると、20～34 歳が全体の 51.7%を占めている。

（図13、統計表第7表、第15表）

図13　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数

Ⅲ　市町村別推計人口

１　市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の 184,132 人、最も少ないのは江府町の 2,425 人

市郡別にみると、市部の推計人口は 405,503 人（男性 194,437 人、女性 211,066 人：県人口に占める割合 75.5%）で、郡部の推計人口は 131,815 人（男性 62,728 人、女性 69,087 人：同 24.5%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の 184,132 人（男性 89,424 人、女性 94,708 人:同 34.3%）で、次いで米子市の 145,121 人（男性 68,829 人、女性 76,292 人:同 27.0%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、湯梨浜町の 15,705 人（男性 7,492 人、女性 8,213 人：同 2.9%）で、次いで琴浦町の 15,513 人（男性 7,348 人、女性 8,165 人：同 2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の 2,425 人（男性 1,121 人、女性 1,304 人：同 0.5%）で、次いで若桜町の 2,558 人（男性 1,221 人、女性 1,337 人：同 0.5%）であった。

過去５年間（令和元年～令和５年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く１８市町で減少している。

日吉津村は平成２８年以降増加が続き、令和元年は減少したものの、令和２年から増加に転じた。

（表４、統計表第８表、第８－１表）

表４　市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位:人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	417,003	415,007	412,220	409,539	405,503	49,541	223,226	124,863	172,806	2.35
郡計	140,340	138,400	136,342	134,076	131,815	14,839	64,269	52,551	48,974	2.69
東部地区	225,945	224,492	222,529	220,709	218,036	25,742	118,976	69,736	90,929	2.40
中部地区	100,367	99,193	97,932	96,631	95,175	11,629	48,487	34,529	36,966	2.57
西部地区	231,031	229,722	228,101	226,275	224,107	27,009	120,032	73,149	93,885	2.39
鳥取市	189,364	188,465	187,238	186,045	184,132	22,235	102,521	55,803	78,204	2.35
米子市	147,715	147,317	146,753	146,148	145,121	18,380	80,557	42,469	63,233	2.30
倉吉市	46,991	46,485	45,828	45,227	44,480	5,260	22,888	15,891	18,109	2.46
境港市	32,933	32,740	32,401	32,119	31,770	3,666	17,260	10,700	13,260	2.40
岩美町	10,967	10,799	10,655	10,531	10,394	1,149	5,197	4,043	3,976	2.61
若桜町	2,941	2,864	2,767	2,661	2,558	156	1,055	1,346	1,133	2.26
智頭町	6,568	6,427	6,251	6,116	5,939	526	2,664	2,749	2,326	2.55
八頭町	16,105	15,937	15,618	15,356	15,013	1,676	7,539	5,795	5,290	2.84
三朝町	6,156	6,060	5,915	5,777	5,657	569	2,736	2,338	2,168	2.61
湯梨浜町	16,204	16,055	15,945	15,880	15,705	2,229	8,264	5,162	5,835	2.69
琴浦町	16,573	16,365	16,066	15,763	15,513	1,804	7,714	5,993	5,764	2.69
北栄町	14,443	14,228	14,178	13,984	13,820	1,767	6,885	5,145	5,090	2.72
日吉津村	3,497	3,501	3,532	3,543	3,588	532	2,005	1,022	1,304	2.75
大山町	15,642	15,370	15,110	14,774	14,498	1,535	6,891	6,072	5,131	2.83
南部町	10,479	10,323	10,208	10,066	9,989	1,084	5,011	3,890	3,543	2.82
伯耆町	10,763	10,696	10,590	10,354	10,221	1,202	4,745	4,251	3,664	2.79
日南町	4,288	4,196	4,090	3,974	3,828	252	1,474	2,100	1,678	2.28
日野町	3,002	2,907	2,822	2,790	2,667	170	1,095	1,402	1,150	2.32
江府町	2,712	2,672	2,595	2,507	2,425	188	994	1,243	922	2.63

２　年齢３区分別人口

（１）年少人口

前年と比べると、年少人口は岩美町で１５人、日吉津村で１２人増加し、その他の市町で減少、年少人口割合は４町村で上昇

年少人口は鳥取市の 22,235 人が最も多く、次いで米子市の 18,380 人であった。前年と比べると、岩美町で 15 人、日吉津村で 12 人増加し、その他の市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村の 14.9%が最も高く、次いで湯梨浜町の 14.2%であった。前年と比べると、岩美町、日吉津村、伯耆町及び江府町で上昇し、北栄町及び日南町で同水準、鳥取市など１３市町で低下した。

（図14、統計表第10表、10－1表、10－2表、10－3表）

（２）生産年齢人口

前年と比べると、生産年齢人口は日吉津村で４０人増加し、その他の市町で減少、生産年齢人口割合は１３市町で低下

生産年齢人口は鳥取市の 102,521 人が最も多く、次いで米子市の 80,557 人であった。前年と比べると、日吉津村で 40 人増加し、その他の市町で減少した。

生産年齢人口割合は米子市の 57.0%が最も高く、次いで鳥取市の 56.8%であった。前年と比べると、境港市、三朝町、湯梨浜町及び日吉津村で上昇し、米子市及び琴浦町で同水準、鳥取市など１３市町で低下した。

（図14、統計表第10表、10－1表、10－2表、10－3表）

（３）老年人口

前年と比べると、老年人口は北栄町で５人増加し、その他の市町村で減少、老年人口割合は１６市町で上昇

老年人口は鳥取市の 55,803 人が最も多く、次いで米子市の 42,469 人であった。前年と比べると、北栄町で 5 人増加し、その他の市町村で減少した。

老年人口割合は日南町の 54.9%が最も高く、次いで若桜町及び日野町の 52.6%であった。前年と比べると、鳥取市など１６市町で上昇し、岩美町及び三朝町で同水準、日吉津村で低下した。

（図14、統計表第10表、10－1表、10－2表、10－3表）

図14 市町村別年齢3区分別人口割合

Ⅳ　市町村人口動態

１　人口増減

人口増減は日吉津村を除くすべての市町で減少

令和５年（令和４年 10 月～令和５年９月）の１年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の 45 人（自然減少 19 人、社会増加 64 人）で、その他の１８市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の 1,913 人（自然減少 1,358 人、社会減少 555 人）、次いで米子市の 1,027 人（自然減少 823 人、社会減少 204 人）、倉吉市の 747 人（自然減少 479 人、社会減少 268 人）、境港市の 349 人（自然減少 340 人、社会減少 9 人）であった。

また、増減率をみると、増加したのは日吉津村の 1.27％で、その他の１８市町は減少し、最も減少したのは日野町の 4.41％、次いで若桜町の 3.87％、日南町の 3.67％、江府町の 3.27％であった。（表５、統計表第８表）

表５　市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,462	8,381	−4,919	15,154	16,532	−1,378	−6,297
鳥取市	1,222	2,580	−1,358	4,433	4,988	−555	−1,913
米子市	1,106	1,929	−823	4,719	4,923	−204	−1,027
倉吉市	280	759	−479	1,278	1,546	−268	−747
境港市	164	504	−340	1,197	1,206	−9	−349
岩美町	61	199	−138	311	310	1	−137
若桜町	11	67	−56	41	88	−47	−103
智頭町	21	152	−131	157	203	−46	−177
八頭町	71	284	−213	265	395	−130	−343
三朝町	17	138	−121	138	137	1	−120
湯梨浜町	127	282	−155	453	473	−20	−175
琴浦町	83	319	−236	481	495	−14	−250
北栄町	82	207	−125	351	390	−39	−164
日吉津村	23	42	−19	197	133	64	45
大山町	62	322	−260	382	398	−16	−276
南部町	47	159	−112	308	273	35	−77
伯耆町	55	172	−117	266	282	−16	−133
日南町	13	112	−99	70	117	−47	−146
日野町	8	86	−78	58	103	−45	−123
江府町	9	68	−59	49	72	−23	−82

２　自然動態

（１）市町村別自然動態

自然増減はすべての市町村で減少

自然増減を市町村別にみると、すべての市町村で減少した。

最も減少したのは鳥取市の 1,358 人（出生数 1,222 人、死亡数 2,580 人）、次いで米子市の 823 人（出生数 1,106 人、死亡数 1,929 人）であった。

自然増減率（対 1,000 人比）をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは日野町の 27.96‰、次いで日南町の 24.91‰であった。

（図15－1、図15－2、統計表第11表）

図15－1 市町村別自然増減数

※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

図15－2 市町村別自然増減率

※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

（２）月別自然動態

出生数は令和５年１月の鳥取市の 124 人、死亡数は令和５年１月の鳥取市の 308 人が最も多い。

月別にみると、出生数は令和５年１月の鳥取市の 124 人（総出生数に占める割合 3.6%）が最も多く、次いで令和５年６月の鳥取市及び令和４年 10 月の米子市の 113 人（同 3.3%）、令和４年 10 月の鳥取市の 112 人（同 3.2%）であった。

死亡数は令和５年１月の鳥取市の 308 人(総死亡数に占める割合 3.7%)が最も多く、次いで令和５年２月の鳥取市の 239 人(同 2.9%)、令和４年 12 月の鳥取市の 230 人(同 2.7%）であった。

（表6）

（３）男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市の 620 人が最も多く、次いで米子市の 587 人、倉吉市の 121 人、境港市の 85 人であった。死亡数は鳥取市の 1,255 人が最も多く、次いで米子市の 958 人、倉吉市の 354 人、境港市の 250 人であった。

女性の出生数は鳥取市の 602 人が最も多く、次いで米子市の 519 人、倉吉市の 159 人、境港市の 79 人であった。死亡数は鳥取市の 1,325 人が最も多く、次いで米子市の 971 人、倉吉市の 405 人、境港市の 254 人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の 4 人、女性では日野町及び江府町の 4 人、死亡数は、男性では日吉津村の 20 人、女性では日吉津村の 22 人であった。

（表6、統計表第11表）

表6　月別男女別自然動態　　－R4年10月～R5年9月－

（単位:人）

			計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県　計	出生数	男	1,745	157	155	144	144	138	148	131	145	144	156	150	133
		女	1,717	182	158	140	165	118	140	113	135	153	129	160	124
		総数	3,462	339	313	284	309	256	288	244	280	297	285	310	257
	死亡数	男	4,051	344	332	352	454	369	344	290	332	302	285	334	313
		女	4,330	355	356	435	458	399	353	340	339	300	329	323	343
		総数	8,381	699	688	787	912	768	697	630	671	602	614	657	656
鳥取市	出生数	男	620	60	50	45	67	43	57	45	41	60	59	44	49
		女	602	52	56	50	57	48	51	33	50	53	50	50	52
		総数	1,222	112	106	95	124	91	108	78	91	113	109	94	101
	死亡数	男	1,255	110	95	104	157	113	104	93	106	104	82	101	86
		女	1,325	100	109	126	151	126	117	116	91	90	94	95	110
		総数	2,580	210	204	230	308	239	221	209	197	194	176	196	196
米子市	出生数	男	587	58	50	46	46	58	39	45	53	51	46	47	48
		女	519	55	53	47	52	32	39	36	41	40	41	55	28
		総数	1,106	113	103	93	98	90	78	81	94	91	87	102	76
	死亡数	男	958	78	84	74	121	83	75	75	81	68	60	82	77
		女	971	75	82	96	105	85	69	80	83	63	77	79	77
		総数	1,929	153	166	170	226	168	144	155	164	131	137	161	154
倉吉市	出生数	男	121	8	9	16	6	10	12	6	14	6	13	15	6
		女	159	11	13	15	15	11	16	15	11	17	8	15	12
		総数	280	19	22	31	21	21	28	21	25	23	21	30	18
	死亡数	男	354	29	34	28	35	41	26	26	25	25	36	22	27
		女	405	34	40	42	29	31	23	34	40	33	33	30	36
		総数	759	63	74	70	64	72	49	60	65	58	69	52	63
境港市	出生数	男	85	5	11	7	3	9	10	2	7	7	5	9	10
		女	79	12	8	3	8	7	5	4	4	7	7	7	7
		総数	164	17	19	10	11	16	15	6	11	14	12	16	17
	死亡数	男	250	18	20	28	17	24	30	13	22	15	22	22	19
		女	254	20	24	17	24	22	17	15	29	23	19	23	21
		総数	504	38	44	45	41	46	47	28	51	38	41	45	40

３　社会動態

（１）市町村別社会動態

社会増減は岩美町で１人、三朝町で１人、日吉津村で６４人、南部町で３５人増加し、その他の市町で減少

社会増減を市町村別にみると、岩美町で 1 人、三朝町で 1 人、日吉津村で 64 人、南部町で 35 人増加し、その他の市町で減少した。

増加したのは日吉津村の 64 人（男性 34 人、女性 30 人）が最も増加し、次いで南部町の 35 人（男性 18 人、女性 17 人）であった。減少したのは鳥取市の 555 人（男性 161 人、女性 394 人）が最も減少し、次いで倉吉市の 268 人（男性 129 人、女性 139 人）であった。

社会増減率（対 1,000 人比）をみると、最も増加したのは日吉津村の 18.06‰で、次いで南部町の 3.48‰、三朝町の 0.17‰、岩美町の 0.09‰、その他の市町は減少し、最も減少したのは若桜町の 17.66‰、次いで日野町の 16.13‰であった。

（図16－1、図16－2、表7、統計表第12表、第15表）

図16－1 市町村別社会増減数

図16－2 市町村別社会増減率

表７　市町村別社会動態

（単位：人）

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,612	10,990	−1,378	5,542	5,542	0	−1,378
東部地区	3,621	4,296	−675	1,586	1,688	−102	−777
中部地区	1,328	1,568	−240	1,373	1,473	−100	−340
西部地区	4,663	5,126	−463	2,583	2,381	202	−261
鳥取市	3,245	3,860	−615	1,188	1,128	60	−555
米子市	3,201	3,656	−455	1,518	1,267	251	−204
倉吉市	662	841	−179	616	705	−89	−268
境港市	858	833	25	339	373	−34	−9
岩美町	146	158	−12	165	152	13	1
若桜町	22	23	−1	19	65	−46	−47
智頭町	102	104	−2	55	99	−44	−46
八頭町	106	151	−45	159	244	−85	−130
三朝町	81	81	0	57	56	1	1
湯梨浜町	142	215	−73	311	258	53	−20
琴浦町	305	254	51	176	241	−65	−14
北栄町	138	177	−39	213	213	0	−39
日吉津村	63	61	2	134	72	62	64
大山町	193	196	−3	189	202	−13	−16
南部町	144	123	21	164	150	14	35
伯耆町	115	121	−6	151	161	−10	−16
日南町	34	54	−20	36	63	−27	−47
日野町	33	43	−10	25	60	−35	−45
江府町	22	39	−17	27	33	−6	−23

注１）転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注２）地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

（２）県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への 433 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 433 人（男性 243 人、女性 190 人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への 332 人（男性 184 人、女性 148 人）であった。

県内移動での転入超過は、米子市の 251 人（男性 141 人、女性 110 人）が最も多く、次いで日吉津村の 62 人（男性 30 人、女性 32 人）であった。

転出超過は、倉吉市の 89 人（男性 39 人、女性 50 人）が最も多く、次いで八頭町の 85 人（男性 31 人、女性 54 人）であった。

また、県内移動を地域区分別にみると、東部から西部への 583 人（男性 328 人、女性 255 人）が最も多く、次いで西部から東部への 456 人（男性 258 人、女性 198 人）、中部から西部への 355 人（男性 169 人、女性 186 人）であった。

（図17、統計表第13表）

図17　地域別社会動態（R4年10月～R5年9月）

県外との社会動態（県全体）	
県外へ転出	10,990人
県外からの転入	9,612人

注）地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

（３）県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への 656 人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への 607 人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への 656 人（男性 337 人、女性 319 人）で、次いで外国から鳥取市への 543 人（男性 253 人、女性 290 人）であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への 607 人（男性 321 人、女性 286 人）、次いで鳥取市から大阪府への 509 人（男性 251 人、女性 258 人）であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、琴浦町の 51 人（男性 12 人、女性 39 人）が最も多く、次いで境港市の 25 人（男性-20 人、女性 45 人）であった。

転出超過は、鳥取市の 615 人（男性 174 人、女性 441 人）が最も多く、次いで米子市の 455 人（男性 188 人、女性 267 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から 620 人（男性 278 人、女性 342 人）が最も多く、次いで兵庫県から 439 人（男性 215 人、女性 224 人）、中部では外国から 257 人（男性 76 人、女性 181 人）が最も多く、次いで岡山県から 150 人（男性 88 人、女性 62 人）、西部では島根県から 904 人（男性 454 人、女性 450 人）が最も多く、次いで岡山県から 396 人（男性 206 人、女性 190 人）であった。

県外転出者については東部では兵庫県へ 578 人（男性 280 人、女性 298 人）が最も多く、次いで大阪府へ 568 人（男性 272 人、女性 296 人）、中部では大阪府へ 209 人（男性 103 人、女性 106 人）が最も多く、次いで外国へ 191 人（男性 80 人、女性 111 人）、西部では島根県へ 839 人（男性 440 人、女性 399 人）が最も多く、次いで大阪府へ 480 人（男性 230 人、女性 250 人）であった。**（表8、統計表第14表）**

表8　都道府県別県外転入・転出者数（上位市町村）

（単位：人）

都道府県	転入					転出				
外国	総数	鳥取市	米子市	琴浦町	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	1,243	543	197	137	366	785	298	118	91	278
島根県	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	1,211	656	198	151	206	1,233	607	282	131	213
大阪府	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	869	315	241	62	251	1,257	509	333	107	308
兵庫県	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	825	385	228	49	163	1,042	501	236	65	240
岡山県	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他
	818	313	245	113	147	875	320	280	97	178
広島県	総数	米子市	鳥取市	倉吉市 境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他
	717	292	259	43	80	750	323	240	59	128
東京都	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
	555	197	193	37	128	1,053	414	333	73	233

（４）４市における年齢５歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも 20～24 歳が最も多い。

【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳の 717 人（男性 403 人、女性 314 人：県全体の県外転入者総数に占める割合 7.5%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 476 人（男性 265 人、女性 211 人：同 5.0%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 1,052 人（男性 556 人、女性 496 人：県全体の県外転出者総数に占める割合 9.6%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 691 人（男性 362 人、女性 329 人：同 6.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、60～64 歳の 34 人（男性 33 人、女性 1 人）が最も多く、次いで 15～19 歳の 33 人（男性 39 人、女性-6 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳の 335 人（男性 153 人、女性 182 人）が最も多く、次いで 25～29 歳の 215 人（男性 97 人、女性 118 人）であった。**（図18－1、統計表第15表）**

図18－1　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（鳥取市）

【米子市】

県外転入者は、20～24 歳の 697 人（男性 370 人、女性 327 人：同 7.3%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 573 人（男性 322 人、女性 251 人：同 6.0%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 868 人（男性 469 人、女性 399 人：同 7.9%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 590 人（男性 303 人、女性 287 人：同 5.4%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65 歳以上の 21 人（男性 35 人、女性-14 人）が最も多く、次いで 55～59 歳の 13 人（男性 8 人、女性 5 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳の 171 人（男性 99 人、女性 72 人）が最も多く、次いで 15～19 歳の 143 人（男性 79 人、女性 64 人）であった。**（図18－2、統計表第15表）**

図18－2　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（米子市）

【倉吉市】

県外転入者は、20～24 歳の 137 人（男性 77 人、女性 60 人：同 1.4%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 102 人（男性 60 人、女性 42 人：同 1.1%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 229 人（男性 119 人、女性 110 人：同 2.1%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 130 人（男性 72 人、女性 58 人：同 1.2%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、40～44 歳の 14 人（男性 5 人、女性 9 人）が最も多く、次いで 50～54 歳の 8 人（男性 10 人、女性-2 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳の 92 人（男性 42 人、女性 50 人）が最も多く、次いで 15～19 歳の 78 人（男性 38 人、女性 40 人）であった。**（図18－3、統計表第15表）**

図18－3　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（倉吉市）

【境港市】

県外転入者は、20～24 歳の 190 人（男性 96 人、女性 94 人：同 2.0%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 172 人（男性 88 人、女性 84 人：同 1.8%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 185 人（男性 108 人、女性 77 人：同 1.7%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 163 人（男性 75 人、女性 88 人：同 1.5%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、25～29 歳の 9 人（男性 13 人、女性-4 人）、50～54 歳の 9 人（男性 11 人、女性-2 人）及び 55～59 歳の 9 人（男性 6 人、女性 3 人）が最も多く、次いで 10～14 歳の 6 人（男性 1 人、女性 5 人）であった。

転出超過数は、0～4 歳の 12 人（男性 8 人、女性 4 人）が最も多く、次いで 5～9 歳の 8 人（男性 5 人、女性 3 人）であった。**（図１８－４、統計表第15表）**

図18－4　年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（境港市）

＜参考＞　外国人（国籍不詳を含む）の推計人口

１　推計人口と世帯数

・令和５年 10 月 1 日現在の推計人口（国籍不詳 5,118 人を含む。以下同じ。）は、10,217 人で、前年に比べ 501 人増加

・男女別人口は、男性 4,465 人、女性 5,752 人で、人口性比は 77.6
（表９、P.3 表１、統計表第１表）

２　年齢別３区分別人口（年齢不詳を含まない）

・年少人口は 220 人、生産年齢人口は 4,604 人、老年人口は 434 人

・年少人口割合は 4.2%、生産年齢人口割合は 87.6%、老年人口割合は 8.3%

・年齢５歳階級別人口は、男女とも 20～24 歳の 981 人（男性 448 人、女性 533 人）が最も多く、次いで男女とも 25～29 歳の 911 人（男性 408 人、女性 503 人）が多い
（表９、P.6 表２、表３）

３　市町村別推計人口

・市町村別の推計人口は、米子市の 4,240 人（男性 1,803 人、女性 2,437 人）が最も多く、次いで鳥取市の 3,538 人（男性 1,786 人、女性 1,752 人）（表９）

表９　市町村別推計人口、年齢3区分別人口（外国人）

（単位：人、%）

区分	推計人口			年齢3区分別人口			年齢3区分別人口割合（%）		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	10,217	4,465	5,752	220	4,604	434	4.2	87.6	8.3
鳥取市	3,538	1,786	1,752	90	1,448	118	5.4	87.4	7.1
米子市	4,240	1,803	2,437	81	1,283	184	5.2	82.9	11.9
倉吉市	508	218	290	10	239	32	3.6	85.1	11.4
境港市	686	200	486	12	539	33	2.1	92.3	5.7
岩美町	106	48	58	2	98	1	2.0	97.0	1.0
若桜町	28	6	22	0	28	0	0.0	100.0	0.0
智頭町	68	26	42	0	67	1	0.0	98.5	1.5
八頭町	66	8	58	2	61	3	3.0	92.4	4.5
三朝町	80	47	33	5	69	2	6.6	90.8	2.6
湯梨浜町	94	27	67	2	79	4	2.4	92.9	4.7
琴浦町	293	101	192	8	268	17	2.7	91.5	5.8
北栄町	111	28	83	5	99	4	4.6	91.7	3.7
日吉津村	53	17	36	0	21	13	0.0	61.8	38.2
大山町	138	52	86	0	125	13	0.0	90.6	9.4
南部町	105	59	46	0	101	1	0.0	99.0	1.0
伯耆町	54	22	32	1	35	5	2.4	85.4	12.2
日南町	20	11	9	0	18	2	0.0	90.0	10.0
日野町	20	5	15	2	17	1	10.0	85.0	5.0
江府町	9	1	8	0	9	0	0.0	100.0	0.0

注）推計人口に年齢不詳は含まれるが、年齢３区分に年齢不詳は含まれない。

4　自然動態

・出生数は 15 人（男性 10 人、女性 5 人）
・死亡数は 15 人（男性 6 人、女性 9 人）（**表10**）

表10　自然動態（外国人）

（単位：人）

月 次	出　生			死　亡		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総　数	15	10	5	15	6	9
10 月	0	0	0	1	0	1
11 月	1	0	1	1	1	0
12 月	1	0	1	1	1	0
1 月	1	1	0	1	1	0
2 月	1	1	0	2	0	2
3 月	2	2	0	3	1	2
4 月	4	3	1	4	1	3
5 月	2	2	0	0	0	0
6 月	2	1	1	0	0	0
7 月	1	0	1	0	0	0
8 月	0	0	0	2	1	1
9 月	0	0	0	0	0	0

5　社会動態

（1） 県内移動

・県内移動者数は 117 人（男性 46 人、女性 71 人）
・転入が最も多いのは米子市の 36 人（男性 17 人、女性 19 人）
・転入超過数は、米子市の 25 人（男性 9 人、女性 16 人）が最も多く、転出超過数は、鳥取市の 19 人（男性 18 人、女性 1 人）及び琴浦町の 19 人（男性-1 人、女性 20 人）が最も多い。

（2） 県外転入・県外転出

・県外転入者数は 1,775 人（男性 789 人、女性 986 人）で、県外転出者数は 1,274 人（男性 583 人、女性 691 人）
・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の 642 人（男性 324 人、女性 318 人）で、次いで米子市の 374 人（男性 178 人、女性 196 人）
・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の 480 人（男性 217 人、女性 263 人）で、次いで米子市の 272 人（男性 135 人、女性 137 人）
・転入超過数は、鳥取市の 162 人（男性 107 人、女性 55 人）が最も多く、転出超過数は、倉吉市の 17 人（男性 13 人、女性 4 人）が最も多い。（**表11**）

表１１　市町村別社会動態（外国人）

（単位：人）

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,775	789	986	1,274	583	691	501	117	46	71	117	46	71	0	501
東部地区	735	343	392	554	241	313	181	32	6	26	49	24	25	−17	164
中部地区	331	125	206	260	114	146	71	38	16	22	32	6	26	6	77
西部地区	709	321	388	460	228	232	249	47	24	23	36	16	20	11	260
鳥取市	642	324	318	480	217	263	162	21	5	16	40	23	17	−19	143
米子市	374	178	196	272	135	137	102	36	17	19	11	8	3	25	127
倉吉市	63	30	33	80	43	37	−17	22	13	9	5	3	2	17	0
境港市	197	58	139	96	34	62	101	7	4	3	10	2	8	−3	98
岩美町	52	11	41	38	10	28	14	4	0	4	1	0	1	3	17
若桜町	4	1	3	4	0	4	0	3	0	3	3	0	3	0	0
智頭町	30	6	24	24	10	14	6	3	1	2	0	0	0	3	9
八頭町	7	1	6	8	4	4	−1	1	0	1	5	1	4	−4	−5
三朝町	37	24	13	23	12	11	14	1	0	1	0	0	0	1	15
湯梨浜町	30	10	20	34	9	25	−4	7	0	7	3	1	2	4	0
琴浦町	178	53	125	106	42	64	72	2	2	0	21	1	20	−19	53
北栄町	23	8	15	17	8	9	6	6	1	5	3	1	2	3	9
日吉津村	4	3	1	5	3	2	−1	1	1	0	0	0	0	1	0
大山町	63	36	27	36	17	19	27	1	0	1	6	5	1	−5	22
南部町	48	29	19	31	23	8	17	2	2	0	6	0	6	−4	13
伯耆町	9	7	2	8	6	2	1	0	0	0	3	1	2	−3	−2
日南町	8	8		7	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
日野町	4	2	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
江府町	2	0	2	3	3	0	−1	0	0	0	0	0	0	0	−1

注１）転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注２）地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。